

## ◎会議要録

1 会議の名称	平成30年度 砺波市子ども・子育て会議（第2回）
2 開催の日時	平成30年11月27日（火） 午前10時～11時40分
3 開催の場所	砺波市役所 本館3階 小ホール
4 出席者名	別添会議録のとおり。
5 議題	1 協議・報告事項 （1）幼稚園の統合について （2）平成31年度の各施設の利用定員の設定について （3）保育所をとりまく現状と課題について （4）子ども・子育て支援に関するニーズ調査について 2 その他
6 公開の明示 及びその理由	公開
7 審議の概要	別添会議録のとおり。
8 会議の主管課 及び問い合わせ先	砺波市教育委員会 こども課 内線 371・375

◎平成30年度 砺波市子ども・子育て会議（第2回）会議録

○開催日 平成30年11月27日（火）午前10時～11時40分

○会場 砺波市役所 本館3階 小ホール

○委員出席者 小倉委員、小幡委員、金平委員、川合委員、小芝委員、齋藤委員、清水委員、高池委員、中川委員、林委員、堀委員、本多委員、山本良委員（代理:吉田友子氏）、米山委員、渡邊千委員、渡邊舞委員  
欠席・・・小田二委員、武田委員、前田委員、山本郁委員

○市側出席者 山本教育長、畑教育委員会事務局長、森田教育委員会事務局次長・教育総務課長、横山こども課長、端谷こども課主幹・児童家庭係長、三部こども課保育幼稚園係長、米島こども課保育幼稚園係主任

## 1 開会

### 2 協議・報告事項

#### (1) 幼稚園の統合について

資料1に基づいて説明

会 長：報告事項について質問などありますか。これでよろしいでしょうか。  
(質問・異議なし)

#### (2) 平成31年度の各施設の利用定員の設定について

資料2に基づいて説明

会 長：利用定員（受け入れする数）についてはいかがでしょうか。

委 員：利用定員については異議はないが、受け入れする際に調整されるということだが、その調整の方針は？

事務局：点数をつけて判断しており、点数が同じで調整が必要となった場合は、原則、兄弟を同じ園に通わせることを優先している。その次は地域性を考慮し、園と同じ校下に住んでいる方を優先。それでも調整できない場合は、家族の状況や過去に兄弟の方が卒園されたことがないかなどをみるなどして調整している。

委 員：出町と北部はどのくらい調整が必要なののか？

事務局：出町は、1歳児、2歳児が調整必要。定員は60名ちょっとだが80名を超える申し込みがあった。北部も、1歳児、2歳児の調整必要で、60名弱の受け入れのところ70名近くの申し込みがあったので10名程度調整が必要になる。

会 長：協議事項(2)各施設の利用定員の設定について は、事務局案のとおりとすることで決定したいと思います。

### (3) 保育所をとりまく現状と課題について

資料3に基づいて説明

会 長：31年度の申込状況とその背景にある過去5年間未就学児の人口の推移などをご説明いただきました。幼稚園については32年度に統合させることになったが、保育所についてはどのように考えたらよいのかということで、保育所のとりまく現状をお示しいただきました。資料をよくご覧いただきまして、これについてご意見、ご質問はありませんか？

委 員：入所申込状況が減ってきている大きな原因はやはり少子化なのか？認定こども園のほうが便利だからなのか？

事務局：平成26年度から30年度にかけて砺波市全体の未就学児の人口が312人減っていることから、一番に考えられる原因は少子化があげられる。入所は働く先のほうが便利ということもあるが、市外の保育所を希望される方は少し減った。

委 員：地区外や市外からの入所の要望はあるのか？

事務局：出町・南部認定こども園を開設し受け入れを拡大していることや、あぶらでん保育園が新しくなったことなどが、地区外や市外からの入所の申込みが増えた要因とも考えられる。

委 員：会長にお聞きしたい。保育所は少人数でも子どもの成長に関しては大丈夫なのか？保育所は働く人のためなので、少人数でも仕方がないことなのか？

会 長：保育所は、保護者が働いていて家での保育に欠けることが条件だが、保育所の役割は、幼稚園と同じように乳幼児の健全な発達を支援する場であり、幼稚園と同一である。幼稚園との違いは、保護者をサポートするために、保育の時間が長いことや、0.1.2歳児を預かることなど、乳幼児の健全な発達を支援する場である。また、保育所は厚生労働省、幼稚園は文部科学省と行政も分かれているが、一本化するための過渡期として、認定こども園をつくり、3歳から5歳児まで、家での保育に欠けていなくても入園できるものであり、保護者の就労状況が変わっても園を変えなくてもよいものである。保育所、幼稚園、認定こども園も子どもの育ちを考える上では同じである。保育所保育指針、幼稚園教育要領、保育教育要領が今年度から改訂されて、保育所も保育教育の施設と明記されているので、保育所も幼稚園と同じ考え方で、子どもの育ちを考える点では保育所でも人数はある程度関係があるほか、少ないといろいろな行事も成り立ちにくくなる。

委 員：砺波市全体の人口の推移で、平成29年度の0歳児が、平成30年度には1歳児になり10名程増えているのは明るい兆しだと思うが、この要因は？

事務局：10名増えている要因の正確な分析はできていないが、推察すると、新興住宅地や砺波

イオンの関係もあるかとは思われ、自然増よりも社会増が要因だと思われる。ただ、全体で見ると、0歳児で平成26年度から30年度を引くと70名減っている。5歳児から0歳児、これは小学校の6年後の人数となる。今は自然増だけで考えているが、5年たつと全体で減っている現状を0.1.2歳児のことを踏まえて今回お示したところである。地域によって増える地域と減る地域があり、それぞれの地域に保育所があるということで、今後の少子化に歯止めがかからない現状を踏まえて、今後、保育所を含めた施設の整備についてが課題になってくることから、皆様方にご意見をいただきたいと考えている。

委員：幼稚園と保育所が統合して認定こども園となっているようだが、今後も同様に、近くの幼稚園と保育所が統合して認定こども園化に進んでいくのか、それぞれがない地域では、新しく認定こども園がつくられていくのか？方向性として、ある程度の人数を確保して認定こども園になると思うが。

事務局：ご指摘のとおり、平成32年度からは幼稚園が高波幼稚園と般若幼稚園の二つだけになる。高波幼稚園は砺波北部小学校下であるが、一定程度申し込み人数があるので統合の対象にはならなかった。般若幼稚園は庄東小学校校下で、庄東小学校校下には東般若保育園がある。国も認定こども園化を進めていることから、いろいろと調整が必要であるが、地域のご理解を得ながら、子ども・子育て支援事業計画にもあるとおり、将来的に認定こども園化を視野に入れながら整備を進めていく。

委員：3歳未満児の申し込みが650人あまりある。0歳から2歳児の全体の人数1000人あまりで、その半数を超えているのに驚いているが、今後も0歳から2歳児の申し込み数は増えていくのか。

事務局：今後も0歳から2歳児の申し込みは増えていく傾向だと思う。砺波市は申込受付の仕方がほかの市町村と違う。他の市町村は4月が一番入りやすい、月が過ぎていけば保育所に入りにくくなるので、育児休業を伸ばしたり前倒ししたりしておられる。砺波市は、いつからの入所申し込みでも、優先順位は同じなので育児休業をフルにとるなど安心して利用してもらえている。0歳がどのタイミングで入ってこられるかによるが、働かれるお母さんは増えるので間違いなく増えると思う。

会長：小規模の保育所もあるということで、今後どう進めたらよいか、いかがでしょうか？

委員：現状を表した資料を今回はじめて見た。地域にどんな施設があるのかなど、すぐに判断しづらいので、今後、ある程度の分析が必要なのではないか。次回の会議までに、地域の特徴なども加味した分析結果を教えてください。

委員：地区を含めた保育所、幼稚園、認定こども園全体の状況がわからないので、将来的な判断はできない。

会長：保育所、幼稚園、認定こども園の状況を含めた、全体的の分析を示してほしいということですね。

委員：子育て支援センターに通っているお母さんたちの思いも入れてほしい。未満児のお母さんたちの中で、次に入所しようと思っているのに将来的になくなるかもしれないと不安を感じている方がいる。自分は庄川町の青島保育所に通っていたが、その当時は東山見保育所の人数のほうが多かった。今は逆転している、人数が減少している状況を見て驚いている。定員人数は、青島より東山見保育所のほうが多いので、希望通りの保育所に入れたいお母さん方が不安を抱えているので、行政でも対応を考えてほしい。

事務局：これまでは、幼稚園について入園児の数が少なくなってきたことで、適切な教育環境について幼稚園の部分で先行して議論いただいた。3歳以上になると、保育所、認定こども園、幼稚園も同様であるということである。現在は、3歳児から5歳児については概ね地域の保育所に地域のお子さんが入っている状況。このようなときに、幼稚園で議論したことがそのまま、保育所、認定こども園当てはめることが可能かどうか、0.1.2歳児を預かっているのが、3.4.5歳児と切り離しながら考えていくことがでてくるのではないかなど、非常に難しい部分がある。次回の会議までに、こども課のほうで、学識経験者や委員の皆さんからのご意見をいただきながら、基準、めやすを検討し、判断基準のたたき台をつくって提示させていただいて議論していただきたい。

子育て支援センターの保護者の方は、0.1.2歳児を保育所に預けるタイミングをどう考えるかということがあるということで、0.1.2歳児は3.4.5歳児と同じような定員ではないので希望通り入れない部分もあり、ご理解をいただかないといけないと思っている。

いずれにしても、子どもの現状を地域の皆さんに知っていただくことも大切なので、積極的に情報提供をしたい。次回の会議で、あらためて資料を提出したい。

会長：現状と課題について、保育所だけでなく認定こども園、幼稚園を含めて全体の資料を事務局のほうで作っていただいて、保育所の問題を今後検討していくということです。

昨年11月の会議において、小規模の幼稚園については、別に検討するためのワーキンググループを設け、関係の皆さんからの意見を伺い、報告書という形でこの会議に出していただき、了承しました。

今回の保育所についてですが、ワーキンググループの前に、まず、事務局において判断の基準のたたき台を作成していただき、そのたたき台をもとに議論を深めていくこととしたいと思いますが、皆さん、いかがでしょうか。

(異議なし)

#### (4) 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査について

資料4に基づいて説明

(質問なし) (異議なし)

会長：調査項目も新しく追加されておりますが、基本的には第1期のものと同様であるということです。市として独自の項目も追加することもできますので、調査票の内容につきまして、ご意見等ありましたら「ご意見・ご提案をいただくための送付書」にまたご記入いただき、事務局へ提出いただきたいと思います。

### 3 その他

事務局：次回の会議は、新年度に入ってから、5月までに会議を開催したいと考えているので、その時に、保育所、認定こども園、幼稚園含めた全体の分析した資料と判断基準のたたき台をお示するとともに、ニーズ調査の結果をご報告させていただき、皆さまからご意見をお伺いしたいと考えている。

会 長：本日予定しておりました案件については、協議等が終了いたしました。

会 長 降壇

### 4 閉会

教育長挨拶

本日はお忙しい中、ご出席いただき、貴重なご意見を賜り、ありがとうございました。

幼稚園の統廃合を通じて、私自身が考えさせられたことを申し上げます。

3歳児から5歳児までの子どもたちのどの程度の規模が保育にとっていいのだろうかということです。0.1.2歳児は規模は問題にならないと思いますが、3.4.5歳児の望ましい規模のヒントは子どもにあります。保育所も認定こども園も幼稚園も中味は一緒で、遊んでいます。遊びこそが学びです。遊びは人数によって制限を受けるというのはご存知のとおりで、人数によって遊びの内容が決まるということです。その自由度は多い方にあるのは当然のことです。同年代で同性同士で遊びたい要求に応じる人数がどのくらいがいいのか、今後、専門家にお聞きしながら、次回の会議で情報提供できればいいと考えております。

本日は貴重なご意見をありがとうございました。次回も、よろしく願いいたします。